

令和元年度 7月号 (No.4)

世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人



植竹中だより

さいたま市立植竹中学校 学校教育目標：「ひと」とともに生きる生徒の育成

『ひと』とともに生きる生徒の育成

～力強さと優しさと～

校長 福島 博子

梅雨明けが待たれます。雨の合間を縫うように部活動に励み、また教室からは、学習に主体的に臨む生徒たちの声が響きます。

さて、6月18日、雨のため延期となっていた待望の体育祭を爽やかな青空の下、開催することができました。当日は、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様、ご来賓の皆様にご来校いただき、心から感謝しております。今年は熱中症対策として、植竹小学校の校長先生・PTA 会長様直伝の「ミストシャワー」を教頭と業務担当が苦勞しながらも手作りし、本番に臨むことができました。さらに、本校のPTA 会長も自ら霧吹きを手にしてくださるなど、PTA の皆様にも様々な場面でお力添えをいただいたおかげで、無事にそして見事な体育祭を全校生徒そしてご来場いただいた皆様とともに実感することができました。ありがとうございました。あるご来賓の方が帰り際にわざわざ私のところにお立ち寄りくださり、「長い間教育にかかわってきましたが、こんなに素晴らしい『ソーラン節』を見たのは初めてです。動きといい声といい見事以外の言葉が見つかりません。生徒の皆さんにも是非この感動を伝えてください」と、おっしゃってくださいました。本当にありがたいお言葉に私も胸がつまりました。

生徒の皆さん。植竹中は長い伝統の中で、はぐくまれてきたかけがえのない伝統がたくさんあります。その一つは、「力強さ」でしょうか。「植中ソーラン」もその一つです。また、体育の「集団走」、学習や行事、部活動等に最後まで取り組む姿勢もその力強さの象徴であると思います。是非、これからも大切に守っていきたい伝統です。

そして、もう一つの伝統は、私は、「優しさ」ではないかと思います。6月25日から3年生と一緒にいった修学旅行でもその「優しさ」に多くふれることができました。班活動中に落とした財布を拾い、わざわざ交番に届けてくれた男子生徒(落とし主が見つかり、本当に感謝していたとのこと)。「本人は大丈夫というのですが、歩き方がいつもと違うので心配で先生に電話しました」と本部に待機する職員に電話をかけた班長である女子生徒。また、奈良から京都に向かう電車の中では、年配の方に優しく接し、「是非、校長先生にこの子たちの優しさを直接お伝えしたい」とおっしゃっているそのすぐ近くに実は私も乗車しており、生徒が「校長先生はあちらです」と応えたので電車の中がなんとも言えないなごやかなムードに包まれたこと。その他も挙げたらきりのないくらい、修学旅行では、京都・奈良の魅力にもまさる植中生の心根の優しさに心癒されました。きっと普通の学校生活でも私のところまで届かないだけで、すべての学年で多くの「優しさ」が校内にあふれているものと信じています。まさに、「『ひと』とともに生きる生徒」ですね。

さて、1学期も残すところあと3週間となりました。怪我や事故に十分気をつけて、全員が植竹中の伝統に則った生活を実現し、元気に終業式を迎えましょう。学校も教職員一丸となって、今年度の私どもの目標である「楽しく学び心を耕し夢と希望のあふれる学校」「家庭・地域から信頼され、安全で安心な学校」の実現に全力を傾注いたします。

保護者・地域の皆様におかれましては、今後ともご支援・ご協力の程お願い申し上げます。